昭和三十七年五月七日

現代俳句協会々員　隈　治人

（長崎市大黒町四五）

蒼空夢道　様

謹啓　初夏の候益々御清適のこととおよろこび申上げます。

さて、まことに卒爾で恐縮に存じますが、私儀このたび本年度現代俳句協会新会員の候補者として八かぢれ同人V島野謙夫氏を推薦いたしましたので、同氏に関する詳細資料を全対致しお送りすることに致しました。あしからず御諒承下さるようお願いいたします。私としては島野謙夫氏が適格者であることを確信しますが、後輩はあくまでも公正な立場からなされねばならないと思いますので、別紙資料により選考御再考下さるようお願い致したうございます。

御多忙中御迷惑をおかけすると思いますが御検討を願きますれば仕合せに存じます。

失礼の段は何卒御許しいただきますよう謹詫び申上げます。

匆々敬具

柳宗夫氏について九州の会員が一係になって応援するようにとあらゆる手のべが出る。なるべく卒業後の方が出る。

島野国夫

戦とほし正月炬の足を焼み
眼焼とる類一ぱいに春の星
春雨に春が張潜さゆく汽車前下
春灯に暈めく地下街影寒くす
東風強風思索かへる時素子を出す
鉄蕗子に光りて蒸の後系る
蛇の衣日蝕隠者めさてをかし
汗し来て百薬一酒豆に拡がる
紙魚こぼす読書曙会の空気充つ
敷で踏む都会の坐さ汗にじむ
雨易く春の壁やざ緩逆す
空青く平温のごとき秋蒸出でよ
月夜の四囲鉄色に板硝る
秋光浦人の足音頑さ命ける
蒸塚にほふ道の黄壁破かなり
靴下を脱ぎ点灯す夕時雨
降子雨ゆらし類浮びくる見舞状
天に蒸塔が蒸垂板弩り合ひぬ
石眠る和れの深さにはまりゆく
寒の雨系して仕事残りゐる

「島野国夫略歴」　大正十一年十一月五日生、昭和十七年十月満州中央銀行勤務、昭和十九年七月応召、京城入隊、敗戦で終戦、現在千葉県立茂原農業高校教諭。昭和十八年俳句をはじめ（かぢれ）に入り、大竹孤悲に始事、昭和二十三年かぢれ同人、昭和二十五年第十一回かぢれ賞受賞、昭和三十一年八月「俳句」に三十句を発表。

現住所　千葉県長生郡長南町水沼六二六。

「最近執筆一覧」　随筆・誕生日と俳句（昭三五、四）　女流作家論（昭三五、五）
他誌作品群（昭三五、九）　新人賞作品群（昭三五、十一）　現代俳句における川柳的要素（昭三六、六）　他誌作品群（昭三六、八～九）　新人賞作品群（昭三六、十一）　作品論（昭三六、十二）

隈治人